



岡山県早島町教育委員会

協働・協学・協育の町づくり

～一人一人が輝く持続可能な共生社会を目指して～

岡山県早島町教育委員会
教育長 徳山 順子

1. はじめに

「こんな小さな町
によろこお越しく
くださいました。」初
めての土曜はやし
ま塾で中三の生
徒に自己紹介をし
た際に言われた言
葉。早島につく「小
さな」という形容
詞が印象に残っ
た。小さいからこ
そ、世界が学びの
キャンパスとなる学校園づくりがしたい。夢や志、広い視野
やたくましい心が育つ教育がしたい。生徒の言葉に教育長
としての夢が膨んだ。早島町は岡山市と倉敷市の間に位置
し、県内で一番面積は小さいけれど人口密度が一番高い
町。昔は吉備の穴海であった早島は、岡山城を築城した宇
喜多秀家が干拓を命じ、汐止め堤防の「宇喜多堤」を造っ
た。何度も津波に流されながらも未来の早島のために「希
望の杭」を打ち続けた先人たちの試行錯誤の日々のおかげ
で、塩分に強いイ草を植え、当時日本一の生産量を誇る町
となった。こうした先人の努力を誇りに思い、持続可能な未
来を創造する担い手づくりに向け、SGDsのゴール目標を踏
まえたESD教育に取り組むことで、学校園を中心に、町全
体を学びの舎とした「協働・協学・協育の町づくり」を目
指している。



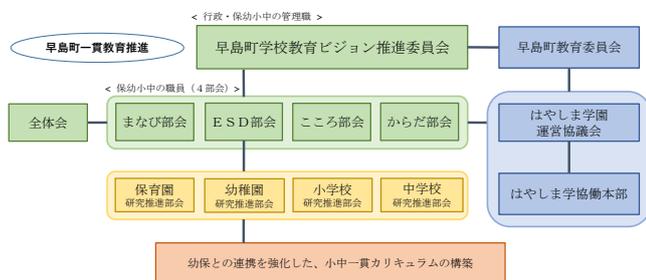
2. 本プロジェクトの3つの柱

一人一人が輝く持続可能な教育の実現に向け、夢や志を
もつには、校種を越えた学校園の結び付きやそれを支える地
域とのつながりが大切であると考え、子どもと学校園を中心
にして、町民が共に学び合い、育ち合う環境を創ることで生
涯学習の輪を広げ、早島で学ぶことを誇りに思い、地域を誇
りに思う地域住民が育つ町にしたいと考えた。そこで平成 25
年に「早島町学校教育ビジョン」を策定し、目指す子ども像
を「地域とつながり 未来を拓く 早島っ子」として具体的な姿
を地域と学校間とで共有している。重点として、①保幼小中
の連携を強化した小中一貫教育の推進、②町民と共に学び、
地域を考える「はしま学」の推進、③早島っ子を育てる学
習サポートボランティアの拡充などを掲げ、「自立、共生、郷
土早島を愛する心」の育つ学校園を目指し、社会総がかり
の様々な教育活動に取り組んでいるところである。



3. 学校・地域・行政との推進体制づくり

本町では、学校園の管理職を中心とした「早島町学校教育ビジョン推進委員会」を立ち上げ、全教員が「まなび部・ESD部・こころ部・からだ部」の4部会に分かれ、各部会で一貫教育の充実に向けた熟議を行っている。また、幼小中学校の学校運営協議会を一体的に組織し、幅広い地域住民の参画を得て、「はやしま学園運営協議会」として学校運営や教育活動のPDCAサイクルを回すとともに、「はやしま学協働本部」と連携・協働した一体的な取組を行っている。



4. 「はやしま学」の推進

学校教育では、キャリア教育とESDの視点を踏まえた、総合的な学習の時間等での9年間の単元学習プログラムを構築し、地域をフィールドにしたW型探究学習活動を行っている。また、SDGs週間を設定し、教科等横断的な単元学習プログラムを作成するなど、付きたい力を明確にして、小中学校教員が同じベクトルで指導を行うことで教育効果を高めている。例えば小5では防災学習、小6で

は環境学習、中1では人権・福祉の視点で、統合失調症やLGBT、認知症等の知識・理解を通して、「人権メガネ」をかけて地域の課題発見・課題解決学習を行い、中2では起業体験活動として地元企業と連携して伝統文化のイ草や特産物を生かした商品開発に取り組むなど、社会に開かれた教育活動を展開することで、自分の生き方を見つめるとともに、持続可能な社会の担い手となる素地を育てている。

また、社会教育では、はやしま学協働本部の協働活動推進員を中心に、土日や放課後、夏休み等の子どもの学びの場として、「はやしま塾」や「英会話塾」、英語検定等の各種検定、地域の魅力を再発見する「ロゲイニング」や夏休みの「わくわくサマーホリデー」など、体験と学習を取り入れた多様な学びの場を提供することで、郷土愛や社会貢献意識の高揚に努めるとともに、多くの地域住民や大学生が授業や校外活動の学習支援に参画する仕組みづくりを構築している。

また、学校で探究したことを地域提案する場として、「子どもフォーラム」や「子ども議会」、大人と子どもが地域課題について意見交流する「熟議」等で、子どもが社会の一員として活躍する場を設定することで、学校教育への理解を深めるとともに、郷土を愛し誇りに思う地域住民を育てている。こうした経験を積んだ高校生が現在ボランティアとして地域で活躍している。

更に、大人はやしま塾の「学びの舎講座」では、「ESD・歴史・健康」の3視点で約30講座を開講し、受講することで応援サポーターの認定証を授与している。こうした大人も子どもも共に学び合う環境づくりは、非認知能力の「やり抜く力」や「つながる力」を育て、地域力の向上に大きな教育効果を上げている。

5. 今後の方向性

子どもが社会に参画することで、世代を越えたつながりや絆を育てるとともに、地域をよくするのは大人だけでなく子どももその一員であるとの当事者意識を育て、更なる学校と地域とのネットワークの構築を図りたい。そして、だれもが過ごしやすい町・夢の宝島プロジェクトを地域一体となって進めていきたい。